

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境活動レポート 2021

対象期間：2020.10.1~2021.9.30

発行日：2021.10.25

2020



2021



Environmental Activity Report



環境経営レポート部門

第23回 環境コミュニケーション大賞 新人賞受賞

環境活動レポート2018年版 2020.2.19 表彰状授与)

未来のための環境創造企業

創業当時からのわが社の基本理念である『より良い環境を次世代に継いで行く』

「エコアクション21」のプログラム運用は、この基本理念を遂行していくうえで欠かせないものであり、また、2019年からはSDGs（持続可能な開発目標）を本プログラムの運用と連携させ、事業活動の中に自然と溶け込む仕組みとしました。

とりわけ環境の取り組みは、事業活動に「特別なプラスワン」の目標遂行が求められますが、社員個々人の活動こそが環境貢献であると考えております。

そして何より、これらを持続するためには「社会から必要とされ続ける企業、一員」としてあらゆるステークホルダーへの協力と協調の輪を広げる努力をしております。



わが社が掲げるSDGs 目標数

実施年度	目標数
2019年度 前年度	17項目中 9項目
2020年度 今年度	17項目中 12項目
2021年度 次年度	17項目中 17項目





	1 組織の概要	1~3 page
	事業所名、代表者名、創立、所在地、 資本金、環境管理責任者、事業内容、 事業規模、認証登録範囲、対象組織図	
	2 許認可	
	1. 収集運搬業	4 page
	1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧	5 page
	1-2. 許認可別車輛一覧	6 page
	2. 産業廃棄物処分業	7 page
	2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧	8 page
	2-2. 産業廃棄物処分フロー図	9 page
	2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2021年度）	10 page
	2-4. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処理の実績（2021年度）	11 page
	3. 建設業（とび・土工工事業）	12 page
	3 環境方針	13 page
	4 環境活動計画	14 page
	5 環境目標・実績	
	5-1. 2021年度目標及び取組み結果	15 page
	5-2. 年度別環境目標（中期3か年）	16 page
	6 環境活動結果とその評価、 次年度の取り組み内容	17 page~ 20 page
	7 環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	21 page
	7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果	
	7-2. 違反・訴訟の有無	
	8 代表者による見直しと評価の結果	22 page
	8-1. 代表者による全体評価と見直し	
	8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い）	



1. 組織の概要 *Summary of the organization*



1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかいはつこうぎょう)
2. 代表者名 代表取締役 長谷川 徹 (はせがわ とおる)
3. 創立 1976年(昭和51年)5月19日 【創業45年】
4. 所在地 北海道北広島市北の里41番地27
5. 資本金 4,800万円
6. 環境管理責任者 取締役 統括部長 佐々木 リサ
【連絡先】 TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499
E-Mail : lisa@kklp.co.jp
7. 事業内容
 - ① 廃油(潤滑油)収集運搬・再生重油製造販売事業
 - ② 産業廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
 - ③ 一般廃棄物及び収集運搬・処理(リサイクル)事業
 - ④ 特別産業廃棄物(低濃度PCB含む)収集運搬事業
 - ⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
 - ⑥ 油漏えい事故対応事業(建設業許可 とび・土工事業)
 - ⑦ 一般貨物自動車運送事業

8. 事業の規模

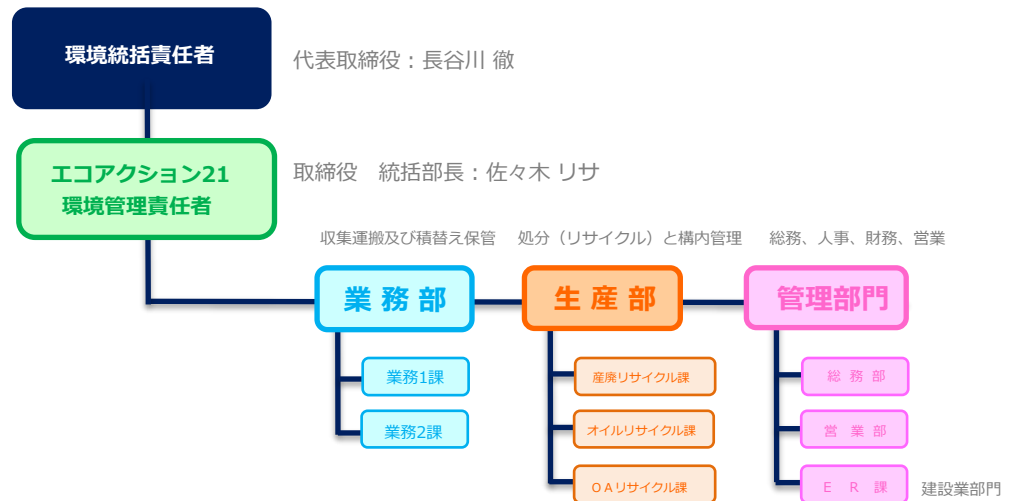
活動項目		2019年度 2018.10~2019.9	2020年度 2019.10~2020.9	2021年度 2020.10~2021.9
産業 廃棄物	収集運搬量	7,796.2 t	6,956.3 t	7,902.0 t
	中間処理量	4,367.0 t	4,517.5 t	4,786.5 t
一般 廃棄物	収集運搬量	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	処理量	0.7 t	0.5 t	0.4 t
建設業	工事件数	3.0 件	9.0 件	28.0 件
売上 高	産廃部門	1,073.6 百万円	1,141.4 百万円	1,069.9 百万円
	建設部門	105.7 百万円	47.8 百万円	422.8 百万円
	TOTAL	1,179.3 百万円	1,189.2 百万円	1,492.7 百万円
従 業 員 数	正社員	63.0 名	62.0 名	64.0 名
	臨時職員	32.0 名	32.0 名	32.0 名
	合計	95.0 名	94.0 名	96.0 名
総敷地面積		21,099.6 m ²	21,099.6 m ²	21,099.6 m ²
床面積		3,976.5 m ²	4,077.6 m ²	4,077.6 m ²

※売上高 建設部門については、決算書上の「完成工事高」数字を表記



9. 認証登録範囲	登録組織名	環境開発工業株式会社
	認証の範囲	再生重油製造販売事業、 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、 一般廃棄物・産業廃棄物の処理（リサイクル）業、 油漏えい事故対応事業、一般貨物自動車運送業

10. 対象組織図



代表取締役会長	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境方針の制定及び改定 2.環境管理責任者の任命 3.環境マネジメントシステム（以下、EMS）に必要な資源の決定と提供 4.全体の評価と見直しの実施（指示）
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1.EMSの統括 2.環境活動計画の推進と検証 3.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答 4.環境上の問題点の明確化と解決策の提案 5.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告 6.担当部署内のEMSの統括
各部門	<ol style="list-style-type: none"> 1.目標及び活動計画の立案と推進 2.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告 3.環境方針の理解と環境目標達成の推進 4.環境活動への積極的参加 5.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告



■ 構内レイアウト





2. 許認可 License

1. 収集運搬業

【産業廃棄物収集運搬業】

取得済

- 許可番号 北海道 第00110004747号
- 許可の年月日 2021年（令和 3年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2028年（令和10年）6月28日

【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

取得済

- 許可番号 北海道 第00160004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）8月28日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）8月22日

許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃油	●	●	-	●	●	● 11種類	◎	-
廃酸	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	◎	-
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	◎	-
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鋳さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの

【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第180号
- 許可の年月日 2019年（令和元年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和 3年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業 廃棄物 収集 運搬 業	保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
	保管場所2	汚泥	47.00	10.00	容器保管
	保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
	保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	3.00
	保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
	保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	212.40	126.00	屋内保管
	保管場所7	金属くず、汚泥、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず、廃プラスチック類 （水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む）	18.00	9.30	屋内保管
	保管場所8	金属くず	48.58	30.00	2.90
	保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
	保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
	保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	75.00	124.00	屋内保管
	保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
	保管場所14	廃プラスチック類	50.00	80.00	容器保管
	保管場所15	金属くず	33.50	40.00	2.50
特別 収集 運搬 業 廃棄物	保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	5.96	1.931	容器保管
	保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	10.00	4.80	容器保管
	保管場所3	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.00	0.20	屋内保管
	保管場所4	廃酸（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	1.00	0.60	屋内保管
	保管場所6	廃アルカリ（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
	保管場所7	汚泥（特定有害産業廃棄物）	1.00	0.60	屋内保管
	保管場所8	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	0.20	屋内保管
	保管場所9	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	4.84	1.60	屋内保管



1-2. 許認可別車両一覧

車両形状	台数	最大積載重量 【単位：t】		許認可別収集運搬車両台数			
				普通	特管	PCB	一般貨物
キャブオーバー	11 台	4.70 ~	11.70	11 台	11 台	11 台	3 台
タンク車	11 台	3.00 ~	12.32	11 台	2 台	0 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~	2.40	1 台	0 台	0 台	0 台
バン	13 台	0.50 ~	4.90	13 台	13 台	13 台	3 台
ステーションワゴン	3 台	0.17 ~	0.22	3 台	3 台	3 台	0 台
TOTAL	39 台	-		39 台	29 台	27 台	6 台

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない車両は除く

環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	1 台	1 台	台	2 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成27年度燃費基準達成車	3 台	4 台	1 台	7 台	台	1 台	16 台
平成27年度燃費基準5%向上達成車	1 台	1 台	台	台	台	台	2 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	3 台	台	台	3 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	2 台	2 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
プラグインハイブリット車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
TOTAL	4 台	5 台	1 台	11 台	1 台	6 台	28 台

全社所有車両42車中 低公害車導入率66.7% (営業車・管理車両含む)





2. 廃棄物処分業

【産業廃棄物処分業】

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 2021年（令和 3年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2028年（令和10年）6月28日



【特別管理産業廃棄物処分業】

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）10月25日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）10月24日



区分	No.	処理施設名	処理能力	
			1日あたり	1時間あたり
産業 廃棄物 処分業	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m ³ /日 (8h)	1.248 m ³ /h
	6	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	7	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	8	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	9	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	11	固形燃料 (RPF)の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
	12	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	プ 2.160 t/日 (8h) 金 3.760 t/日 (8h) ガ 4.000 t/日 (8h)	0.270 t/h 0.470 t/h 0.500 t/h
	13	廃プラスチック類、金属くず、破碎施設	プ 4.720 t/日 (8h) 金 3.520 t/日 (8h)	0.590 t/h 0.440 t/h
	14	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
特 管 業 処	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h

【一般廃棄物処分業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第181号
- 許可の年月日 2019年（令和元年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和 3年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



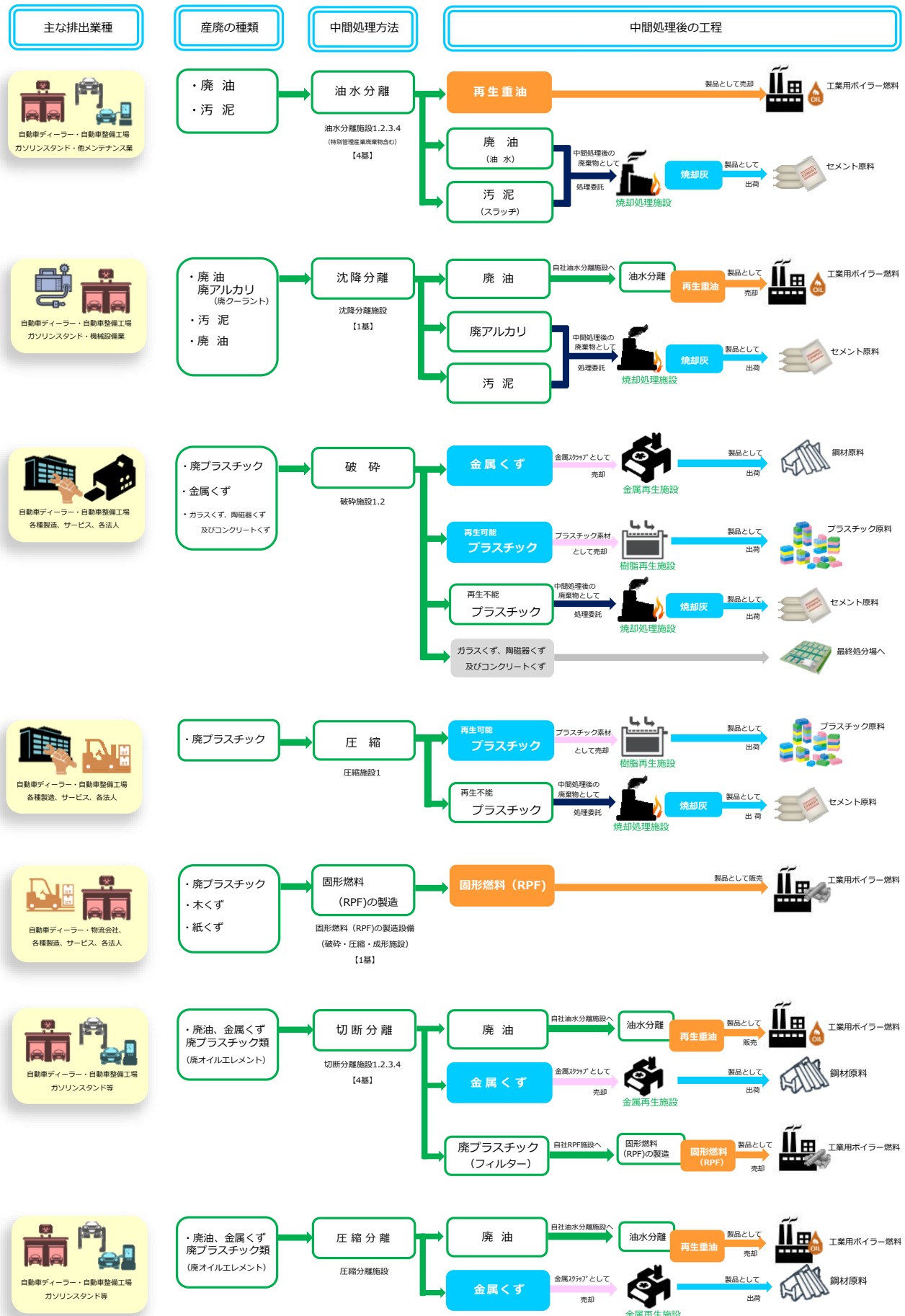
2-1. 産業廃棄物処分量保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業 廃棄物 処分量	保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
	保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	44.00	43.20	容器保管
	保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所4	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
	保管場所5	廃油、廃アルカリ(廃クーラントに限る)	33.64	31.60	容器保管
	保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
	保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
	保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
	保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
	保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
	保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
	保管場所14	金属くず	20.00	18.12	容器保管
	保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
	保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
	保管場所19	廃プラスチック類	17.00	18.12	容器保管
	保管場所20	木くず	39.44	72.48	2.50
	保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
	保管場所22	廃プラスチック類	99.40	162.48	容器保管
	保管場所23	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	10.00	4.80	容器保管
	保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
特別管理 産業廃棄物 処分量	保管場所1	廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類)	4.60	7.00	容器保管
	保管場所2	廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類)	40.30	200.00	屋外タンク



2-2. 産業廃棄物処分フロー図

➡ 中間処理
 ➡ 当社中間処理後の処理委託
 ➡ 売却
 ➡ マテリアルリサイクル
 ➡ サーマルリサイクル
 ➡ 最終処分





2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2021年度）

産業廃棄物		廃棄物種類	収集運搬量
		汚泥	171.2 t
		廃油	2,310.6 t
		廃酸	5.6 t
		廃アルカリ	198.5 t
		廃プラスチック類	1,449.1 t
		木くず	56.1 t
		紙くず	0.0 t
		金属くず	2,112.5 t
		ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	28.7 t
		鉱さい	1.7 t
		がれきくず	10.8 t
		【混合物】廃油・金属くず	t
		【混合物】汚泥・金属くず	3.0 t
		【混合物】廃プラスチック類・金属くず	141.0 t
		【混合物】廃プラスチック類・金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	245.6 t
		【混合物】廃油・廃アルカリ	181.0 t
		【混合物】金属くず・廃油・廃プラスチック類	602.9 t
		産業廃棄物 収集運搬TOTAL	7,518.3 t
特別管理産業廃棄物		廃棄物種類	収集運搬量
		廃油	348.9 t
		廃酸（pH2.0以下）	t
		廃アルカリ（pH12.5以上）	t
		汚泥（有害）	0.1 t
		廃油（有害）	0.1 t
		廃酸（有害）	0.1 t
		廃アルカリ（有害）	1.4 t
		強酸	26.4 t
		廃ポリ塩化ビフェニル等（低濃度PCB）	3.7 t
		【混合物】強酸・金属くず・廃プラスチック類	3.0 t
		特別管理産業廃棄物 収集運搬TOTAL	383.7 t
一般廃棄物		廃棄物種類	収集運搬量
		OA機器	0.0 t
		廃油・廃食油	0.0 t
		一般廃棄物 収集運搬TOTAL	0.0 t
2021年度 収集運搬量合計			7,902.0 t

2-4. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処分の実績（2021年度）

産業 廃棄物	廃棄物種類		処分方法	中間処分量	内、再資源化等
	廃油		油水分離	2,105.9 t	1,979.5 t
			沈降分離	109.7 t	
	廃油・廃アルカリ		沈降分離	360.7 t	0.0 t
	廃プラスチック類		圧縮	97.1 t	t
			固形燃料（RPF）の製造	182.2 t	
			破碎	1,103.4 t	
	金属くず		破碎	61.3 t	60.1 t
	ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず		破碎	40.8 t	0.0 t
	木くず		固形燃料（RPF）の製造	62.2 t	62.2 t
紙くず		固形燃料（RPF）の製造	0.0 t	0.0 t	
【混合物】金属くず・廃油・ 廃プラスチック類（廃エレメント）		切断分離	530.6 t	663.2 t	
		圧縮分離	132.6 t		
産業廃棄物 処分TOTAL				4,786.5 t	2,765.0 t

特 管 物	廃棄物種類		処分方法	中間処分量	内、再資源化等
		廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）		油水分離	0.0 t
特別管理産業廃棄物 処分TOTAL				0.0 t	0.0 t

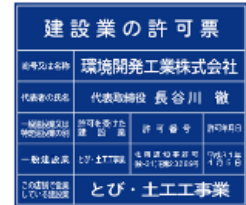
一般 廃棄物	廃棄物種類		処分方法	処分量	内、再資源化等	
		OA機器		破碎	0.4 t	0.4 t
		廃油・廃食油		油水分離	0.0 t	0.0 t
一般廃棄物 処分TOTAL				0.4 t	0.4 t	

2021年度 処分量合計				4,786.9 t	2,765.4 t
---------------------	--	--	--	------------------	------------------

中 間 処 理 後 の 産 業 廃 棄 物	廃棄物種類		最終処分量	中間処分量	再資源化量
		廃油・廃アルカリ	0.0 t	231.2 t	231.2 t
		廃プラスチック類	6.9 t	523.7 t	286.7 t
		廃油	0.0 t	132.2 t	132.2 t
		金属くず	0.0 t	7.8 t	7.8 t
		ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	52.8 t	6.2 t	6.2 t
		がれき屑	0.0 t	0.4 t	0.4 t
		引火性廃油	0.0 t	3.6 t	0.0 t
2021年度 中間処理後の処分量合計			59.7 t	905.1 t	664.5 t

3. 建設業（とび・土工事業）

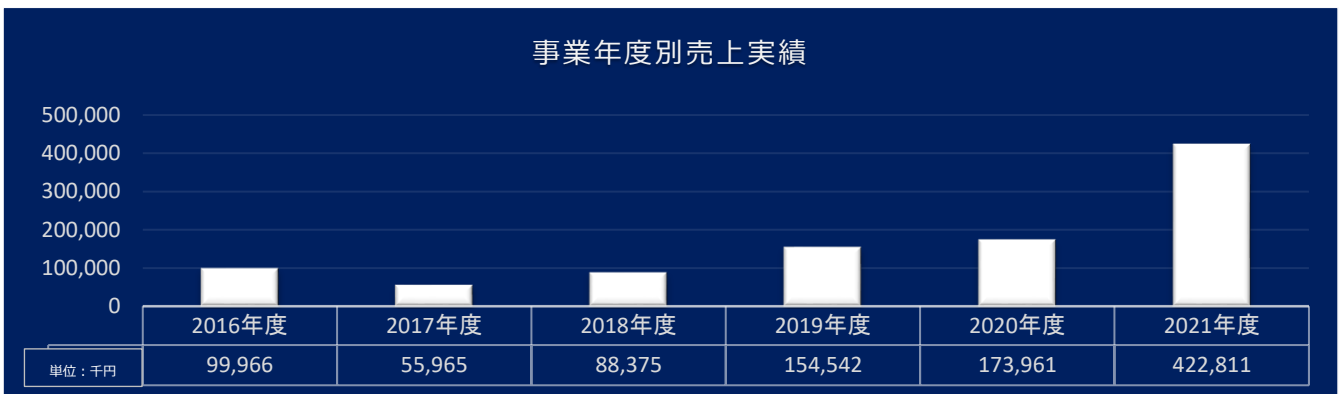
- 許可番号 北海道知事許可（般-31）石第23289号
- 許可の年月日 2019年（平成31年）4月5日
- 許可の年月日有効年月日 2024年（令和6年）4月4日



廃油処理を受託する中、油類の漏洩が発生した際にも多くのお客様から「どうしたらいいの？」
「何とかしてほしい」という相談を以前より受けておりました。

当初は廃棄物処理の付帯業務の一環として対応していたものの、漏洩した油の種類、漏洩量によって異なる汚染範囲、また漏洩した場所や土質等・・・廃棄物処理の付帯業務では片づけられない現場が多数存在することから、当社の新たな柱として2016年度より事業化し、2019年度からは大口受注の請負を可能にするため、建設業許可を取得しました。

特に今期は事業史上最高売上を記録、重大な汚染現場の現状回復に貢献することができました。



■ 主な発生内容

発生場所	件数	施工期間	件数	漏洩発生原因	件数
民間企業	17 件	短期 (数週間)	12 件	タンクや配管の腐食、老朽化	19 件
公共施設	4 件	中期 (数か月)	12 件	交通事故による燃料タンクからの漏洩	4 件
個人宅	7 件	長期 (年単位)	4 件	作業時等による配管損傷	5 件

■ 主な施工方法

「油漏洩対策」はおよそ13種類の方法があると言われていますが、当社では主に3種の方法で対応、中でも「**バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法**」（※環境省認可済）を中心に事業を進めております。

「バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法」とは？

微生物や菌類、植物等を利用して有害物質に汚染された自然環境を元の状態に戻すことを意味します。

- 油を食べる微生物を利用した生分解剤を使用
- 微生物は無害で、食べる油分がなくなると死んで土に還る



バイオレメディエーション工法で使用している2種の生分解剤

※施工事例詳細は、18ページの4. 環境配慮・貢献活動をご覧ください



3. 環境方針 *Environment Policy*

基本理念

Basic Principles

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行し、『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに社会貢献してまいります。

行動指針

Guidelines for action

- 1 環境理念を実現するため環境目標を設定し、環境負荷低減活動を実施します。
- 2 環境関連法及び当社が同意するその他の要求事項を確実に遵守します。
- 3 廃棄物排出量の抑制・埋立・焼却処分の最小化、さらに廃棄物のリサイクル化、再資源化を図り省資源・省エネルギー・CO₂削減、環境負荷の最小化に努めます。
- 4 環境方針、環境目的、環境目標は、必要に応じて改訂します。
- 5 環境方針は文書化し、全従業員に周知するとともに、関係お取引先を含め一般に公開します。

2020年6月6日 制定

環境開発工業株式会社

代表取締役

長谷川 徹

4. 環境活動計画 *Environmental activity plan*

活動計画内容	SDGs項目
<p> 二酸化炭素排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産業廃棄物収集運搬車輛におけるエコドライブの促進と燃費向上に努める ◆製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減 	  
<p> 省資源の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆水を扱うすべての構内において節水を意識し、使用量を削減する 	  
<p> 資源循環の向上と埋立量削減促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献する ①廃油の再生重油化 ②廃プラスチック類のRPF（固形燃料）化 ③鉄、非鉄スクラップの素材化 ◆廃プラスチック類の分別及び選別の徹底により、埋立廃棄物の削減を図る 	  
<p> 環境配慮製品の利用推進と導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地球環境に配慮したバイオ製剤の利用 ◆環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進 ◆車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮 	  
<p> 次世代に繋がる環境貢献活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「SDGs」が掲げる17の目標のうち、12個の推進と実行 ◆「森とアースへのエコプロジェクト」の賛同による森林維持及び保全活動の支援 ◆構内から発生する油脂の除去及び構外への漏洩防止 ◆近隣地域及び社会への貢献可能な寄付活動 	    
<p> あらゆる人々との協力と協調</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆障がい者、高齢者の積極的雇用と社員満足度の向上及び安定収益の維持継続 ◆あらゆるレベルの意思決定において女性の参加、平等なリーダーシップの機会を確保 	  

5. 環境目標・実績 Environment target&Performance

5-1 2021年度目標及び取り組み結果

環境目標項目		単位	主幹部門	前年度実績 2019年10月~ 2020年9月	今年度目標値 2021年度	達成手段	今年度実績 2020年10月~ 2021年9月	目標比	評価	
二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ/年	管理部門	20,240.2	20,000.0	アイドリング時間の削減	17,793.0	-2,207.0	◎	
	軽油	ℓ/年	業務部	235,456.6	245,000.0	急加速・急ブレーキの抑制	245,915.0	915.0	▲	
	灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	24,579.5	22,000.0	ウォームピズの推進	20,989.5	-1,010.5	◎	
	重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	78,000.0	78,000.0	計画通り	76,000.0	-2,000.0	◎	
	LPG	kg/年	オイルリサイクル課	60.0	80.0	ボイラ使用時の着火源の為、現状維持	80.0	0.0	◎	
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	428,308.0	445,000.0	第3工場新設に伴い今期要観察	442,974.0	-2,026.0	◎
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	-	1,216,734.5	1,184,310.0	*****	1,170,780.3	-13,529.7	◎	
収集運搬車輛 燃費向上		km/年	業務部	3.7	3.5	急加速・急ブレーキの抑制	3.4	-0.1	△	
省資源	水の使用量削減		m/年	生産部 管理部門	1,713.0	1,750.0	RPF燃料製造時の冷却を スプリンクラー仕様に変更	1,784.0	34.0	◎
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	10,371.2	9,500.0	廃油収集量前年同等であるため、要観察	9,955.0	455.0	◎
		RPF(固形燃料)	t/年	産廃リサイクル課	863.3	600.0	原料分別強化	658.7	58.7	◎
		非鉄・金属	t/年	OAリサイクル課	2,894.7	2,900.0	分別エリア変更に伴い、手法向上	3,169.0	269.0	◎
廃プラスチック類の 中間処理後の埋立量削減		t/年	産廃リサイクル課	23.1	10.0	分別強化により、RPF原料ヘシフト	6.9	-3.1	◎	
環境配慮製品の 購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	274.0	500.0	原因者に対する浄化処理方法へ 提案、促進	998.0	498.0	◎
	グリーン購入 (環境配慮製品含む)		種/年	総務部	11.0	15.0	購入時に優先検討	22.0	7.0	◎
	低公害車導入	所有車輛入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	2.0	3.0	車両入替時に検討	4.0	1.0	◎
環境・社会 貢献活動	森林維持 保全活動	森とアースへのエコ プロジェクト支援	回/年	総務部	0.0	1.0	オイルリサイクル組合との共同参加支援	1.0	0.0	◎
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	生産部	26.0	6.0	構内油漏洩防止対策による構内洗浄	37.0	31.0	◎

【評価記号】 ○ ⇒ 目標達成及び次年度継続 ▲ ⇒ 目標未達成であるが、要観察として目標値維持 × ⇒ 目標値変更

5-2 年度別環境目標（中期3か年）

環境目標項目	単位	主幹部門	初年度実績 2017年10月～ 2018年9月	中期目標値				
				2021年度(今年度)	2022年度	2023年度		
二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ/年	管理部門	21,788.0	20,000.0	19,600.0	19,400.0	
	軽油	ℓ/年	業務部	230,021.0	245,000.0	240,100.0	237,650.0	
	灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	22,191.0	22,000.0	20,900.0	18,700.0	
	重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	78,000.0	78,000.0	78,000.0	46,800.0	
	LPG	kg/年	オイルリサイクル課	80.0	80.0	80.0	80.0	
電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	387,936.0	445,000.0	436,100.0	431,650.0	
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	*****	1,183,437.0	1,184,310.0	1,163,212.8	1,064,004.0	
収集運搬車輛 燃費向上		km/年	業務部	3.4	3.5	3.6	3.7	
省資源	水の使用量削減		m/年	生産部 管理部門	1,784.0	1,750.0	1,700.0	1,680.0
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	9,955.0	9,500.0	10,100.0	11,000.0
		RPF(固形燃料)	t/年	産廃リサイクル課 OAリサイクル課	658.7	600.0	650.0	700.0
		非鉄・金属	t/年		3,169.0	2,900.0	2,900.0	2,950.0
	廃プラスチック類の 中間処理後の埋立量削減		t/年	産廃リサイクル課	6.9	10.0	8.0	5.0
環境配慮製品の 使用・購	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	438.0	500.0	500.0	550.0
	グリーン購入(環境配慮製品含む)		種/年	総務部	11.0	15.0	15.0	15.0
	低公害車導入	所有車輸入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	3.0	3.0	3.0	2.0
環境・社会 貢献活動	森林維持 保全活動	森とアースへの エコプロジェクト支援	回/年	環境管理責任者	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	環境管理責任者	6.0	6.0	6.0	6.0

■ 電力算出係数 北海道電力2020年度調整後0.538t-CO₂/kwhを使用



6. 環境活動結果とその評価、次年度の取組み内容

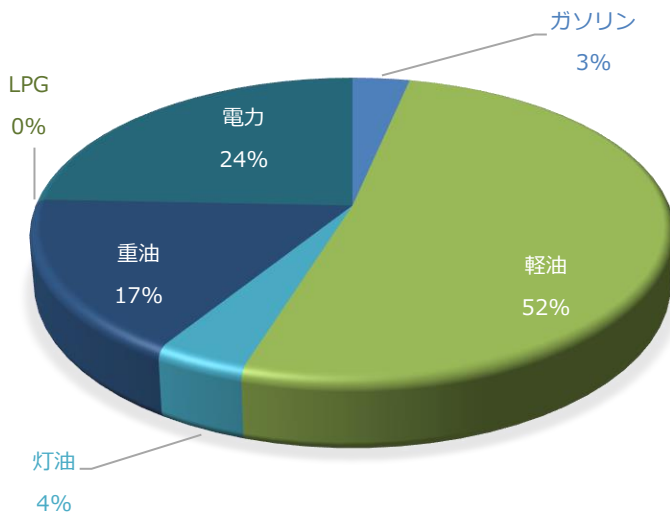
Results of environmental activities and their evaluation, efforts in the next fiscal year

運用5年目に入り2021年度分から3か年の中期計画を策定した。化石燃料の使用は概ね目標値を下回り、CO₂削減に貢献したが、軽油使用量については、収集運搬先が10%以上増えたことから、軽油使用量が増えたがほぼ、目標範囲内で運用することができた。

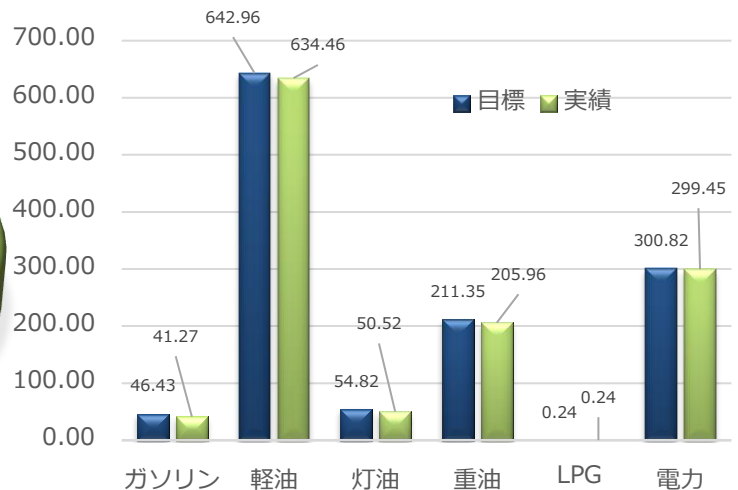
1. 二酸化炭素排出量削減

2021年度	エネルギー使用量 (t/年)			CO ₂ 発生量 (t-CO ₂ /年)		
	目標	実績	差異	目標	実績	差異
ガソリン	20.00	17.79	-2.21	46.43	41.27	-5.16
軽油	245.00	245.91	0.91	642.96	634.46	-8.50
灯油	22.00	20.98	-1.02	54.82	50.52	-4.30
重油	78.00	76.00	-2.00	211.35	205.96	-5.39
LPG	0.10	0.10	0.00	0.24	0.24	0.00
電力	445.00	442.97	-2.03	300.82	299.45	-1.37
TOTAL	810.10	803.75	-6.35	1,256.62	1,231.90	-24.72

【① 使用エネルギー別 CO₂排出量構成率】



【② 使用エネルギー別 CO₂排出量目標対比】



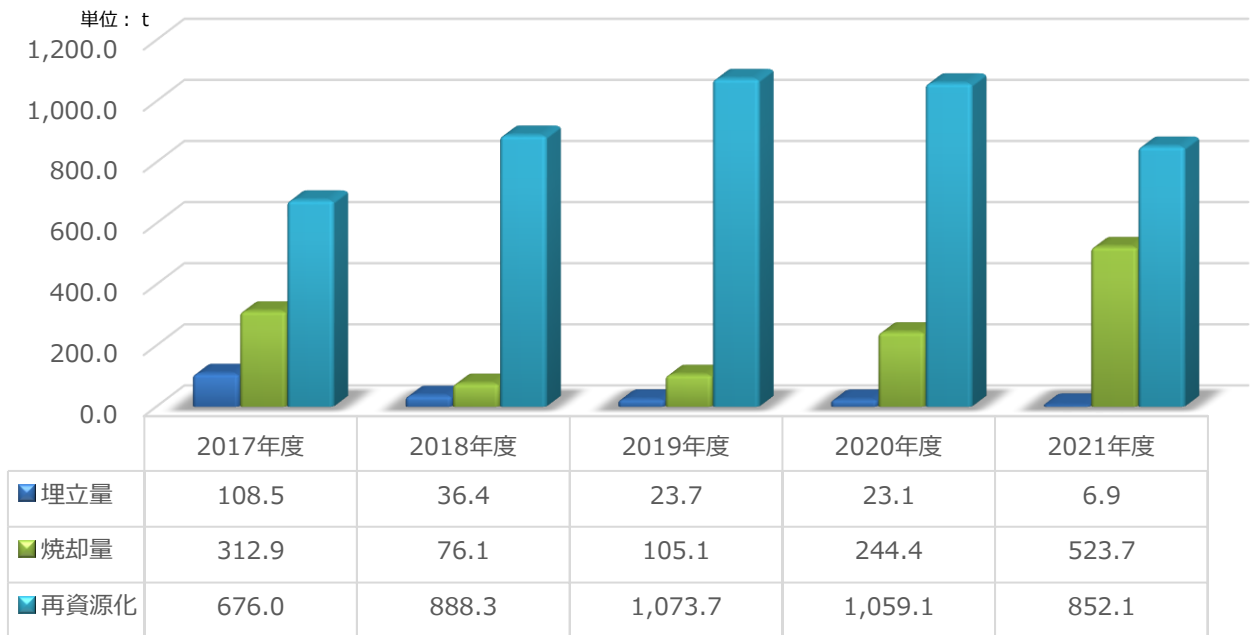
2. 省資源の促進・節水

昨年同様に引き続き、RPF製品の「天かす火災」を防止するため、事実上垂れ流していた水を製品冷却用の水槽を設置、水槽内の冷却水を何度も使用する工夫を行った。また、雨天時には予備の水槽に雨水を受け、冷却水の代用とした。次年度はさらに工夫を重ね、水資源の有効活用を図るものとする。

3. 資源循環・埋立削減

今年度の埋立量は、さらに昨年よりも引き下げることが可能となった。しかし焼却量は昨年を倍を上回る結果となった。主な要因はRPF製造において、供給先から指定いただいている塩素分0.3%以内に収めるため改めて原材料の塩素分を測定したところ、今まで原材料としていた品目の30%近くが原材料として不適合であった。これにより、焼却処理にシフトせざる得ない結果となってしまった。

【③ 事業年度別廃プラスチック類処理方法別実績】



4. 環境配慮・貢献活動

前年に引き続き、環境配慮製品を使用した「油漏洩事故対策」の受注が大きく伸び、廃棄物の発生を抑制しつつ、自然環境に影響を及ぼすことなく現状回復を行った。

特に今年度は漏洩規模が大きく長期間に渡る施工案件も多かったが、漏洩前と変わらぬ状況までに回復させ、環境汚染防止を担うことができました。





5. 環境・社会貢献活動

■DX「デジタル・トランスフォーメーション」とフリーデスク化の導入

新型コロナウイルスの終息が見えない中、事務所内の「密」対策と職種に応じた環境整備を目的として、DXの概念を導入。外出することが多い職種の社員には、各自ノートパソコンを支給し外出先や自宅からでも業務が可能となるよう、基幹システム等をすべてクラウド化とした。また、事務所内中心の業務をする社員のエリアを現状の倍とし、それ以外の社員の執務エリアをフリーデスクとした。特にこの環境を整えるため、およそ80%の書類を電子化し、ペーパーレス化にも貢献、この環境を整えたことで一気に「5S」が身に付きました。

部署ごとのフリーデスク 個人固定席を廃止



執務道具は専用のバックに収納
個人別に収納用のロッカーを配備



全車輛分を集約した
キーロッカー

マニフェスト伝票の印刷を
する専用エリア

■寄付活動による社会貢献

社員の福利厚生をメインとして設置している自動販売機の売上の一部を「日本対がん協会」様に寄付させていただき、微力ながらピンクリボン活動の応援をしています。



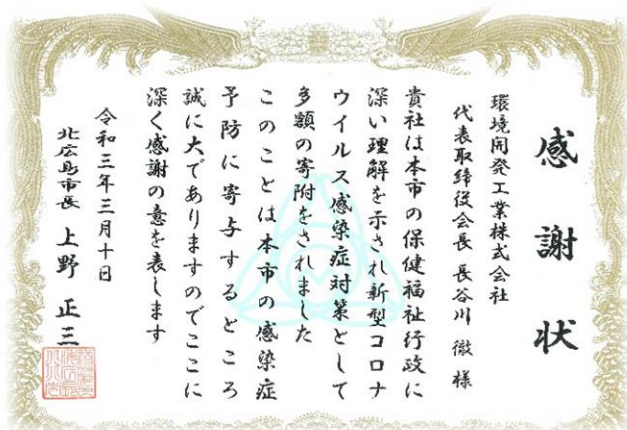
今年度寄付額

86,306円

■地元への社会貢献 北広島市へ寄付

新型コロナウイルスの収束が見えない中、私どもの地元である北広島市に対し

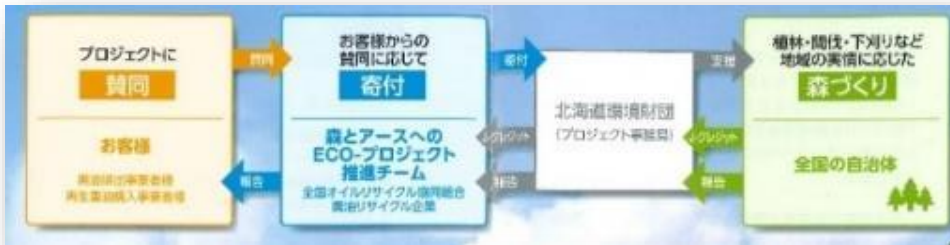
「新型コロナウイルス感染症対策」の費用としてお役立ていただきたく、支援をさせていただきました。ワクチン接種者の増加や感染症対策も浸透し、数か月前と比較し感染者数も大幅に減少していますが、一日も早く以前の日常が戻ってくることを望みます。





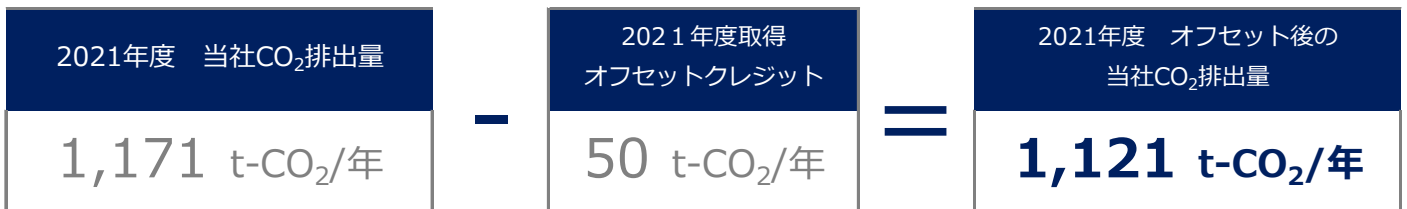
■ 森とアースへのecoプロジェクトへの参加と「Jクレジットの還元」

2014年度より「森とアースへのエコプロジェクト」が開始され、今年度で7回目の参加となり、支援することで得た50 t-CO₂/回のクレジットは今回大幅に超過してしまった自社のCO₂をオフセットするために使用しました。当社の主力事業である廃油リサイクルを今後も日本各地の森づくりにお役立ていただき、少しでも多くのCO₂が吸収されることを願います。



今年度は、静岡県、新潟県村上市、東京都檜原村、兵庫県宍粟市、鳥取県智頭町の1県4市町村と連携し、各地の実情に応じた森林保全活動を実施しました。

【プロジェクトに賛同して得たクレジット使用後のCO₂排出量】





7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 Compliance

7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法律・条令	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証与、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守 車両2車新規追加
	収集運搬業内容の変更	◎ 2021.6 優良認定にて許可更新
	処分業内容の変更	◎ 2021.6 優良認定にて許可更新
	処理施設内容の変更	◎ 変更なし
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2021.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2021.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2021.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2021.6 札幌市へ報告
建設リサイクル法	コンクリート廃材、アスファルト廃材及び廃木材の分別及びリサイクルの促進	◎ 汚染土掘削及び現地浄化により、特定建設資材の発生なし
騒音・振動	特定建設作業（工事）に伴い発生する騒音・振動	◎ 特定建設工事の請負実績なし
大気汚染防止法	炉筒煙管、水管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン排出抑制法	事務所内業務用エアコンの定期点検（4回/年）	◎ 2021.8 定期点検実施
海洋汚染海上災害防止法	事業実績報告	◎ 2020.10 北海道運輸局へ年次事業報告
家電リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 今期家電廃棄なし
自動車リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 車両2台導入 リサイクル料金購入時清算
消防法	危険物施設、設備	◎ 2021.9月 移動タンク年次立入検査 特段、指摘事項なし
北海道公害防止条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 既存設備以外の届出発生なし

7-2. 違反・訴訟の有無

特にありません。



8.代表者による全体の評価と見直し

President evaluation

8-1. 代表者による全体評価と見直し

【環境方針】 変更有無 ⇒ なし

本方針は当社の企業理念を軸にし、事業内容とマッチングしているため、当面は本方針をベースとして運用を行う。但し、環境方針とは別途「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時並行する。

【環境活動計画】 変更有無 ⇒ なし

5.次世代に繋がる環境活動の推進

「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時に遂行する。但し、2022年度に向け、17すべての目標を遂行できるよう、模索すること。

【環境目標】 変更有無 ⇒ なし

■二酸化炭素排出量削減 化石燃料使用量

本年より中期計画見直し時に化石燃料の取扱いについて大幅に見直した。特に軽油使用量については、回収範囲の拡大に伴い、単純な使用量ではなく使用率も鑑みながら、目標値を設定する。

8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い）

昨年に引き続き新型コロナウイルスの収束が見えない中、今年度は過去最高益の事業年度となった。これはひとえにあらゆるステークホルダの方々にご支援いただき実現したことであり、環境を生業とするわが社にとってより一層のESGを高めていく必要があると実感した。そして、このESGをさらなる高みを目指すために最も重要なのが「Well-being」の向上が欠かせません。わが社の経営理念である「未来のための環境創造企業」は人的資本があって実現できることであり、中でも「Well-being」社員の心身ともに良好な状態かつ社員満足度が高くないと成立しません。今後も本プログラムを通じて少しでも健康で長生きのできる地球であり続けられるよう、微力ながら取り組んでまいります。

2021年10月25日

環境開発工業株式会社

代表取締役